

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について
〔2018 年 7-9 月期〕

公益社団法人全国産業資源循環連合会

〔調査結果の概要〕

景況判断 DI は▲12 となり、3 期ぶりに改善した。経営上の問題点を見ると、5 期連続で「従業員の不足」が 1 位となり、深刻な人手不足が続いている。

2018 年 7-9 月期の景況判断を「悪化」とした企業は 20%で前回調査（2018 年 4-6 月期 20%）と同水準、「好転」とした企業は 8%で前回調査（7%）より 1 ポイント改善した。景況判断 DI は▲12 となり、前回調査（▲13）より 1 ポイント改善した。

以下、その他業況感 DI の内訳

2018 年 4-6 月期に対して、

- ・売上高 DI は▲4 で、2 ポイント改善
- ・処理量 DI は▲6 で、1 ポイント改善
- ・契約単価 DI は 6 で、1 ポイント改善
- ・営業利益 DI は▲10 で、3 ポイント改善
- ・資金繰り DI は▲2 で、1 ポイント改善
- ・借入難易度 DI は 7 で、同水準
- ・設備投資 DI は 0 で、1 ポイント改善
- ・従業員数 DI は 4 で、2 ポイント悪化

- 今後の景況感 DI の見通しは、景況判断 DI で▲16 となり、4 ポイント悪化する見込みとなっている。
- 売上高の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 11%増となった。
- 処理量の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 6%減となった。
- 経常利益率については、平均値が 5.46%で前回調査（5.55%）より悪化した。
- 経営上の問題点としては、「従業員の不足」24.4%（前回 22.5%）が 5 期連続で 1 位となった。「人件費以外の費用増加」が前回の 3 位から 2 位に上昇した。

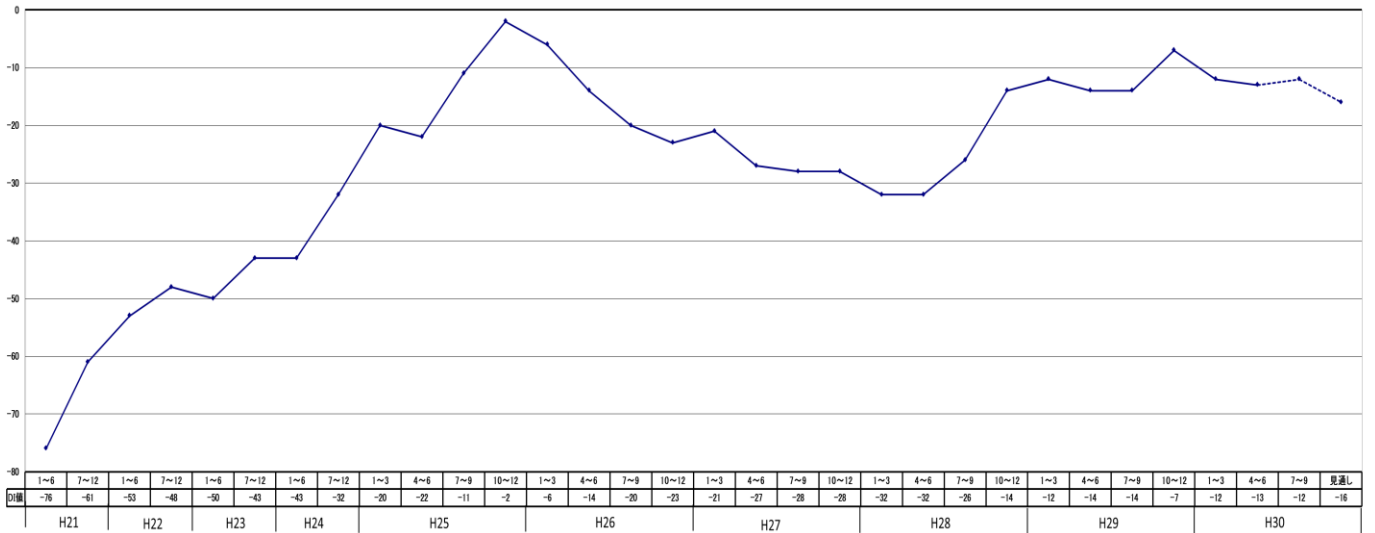
※DI とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

※本調査は、2009 年から半期周期の調査として実施していたが、2013 年からは四半期周期の調査に変更している。

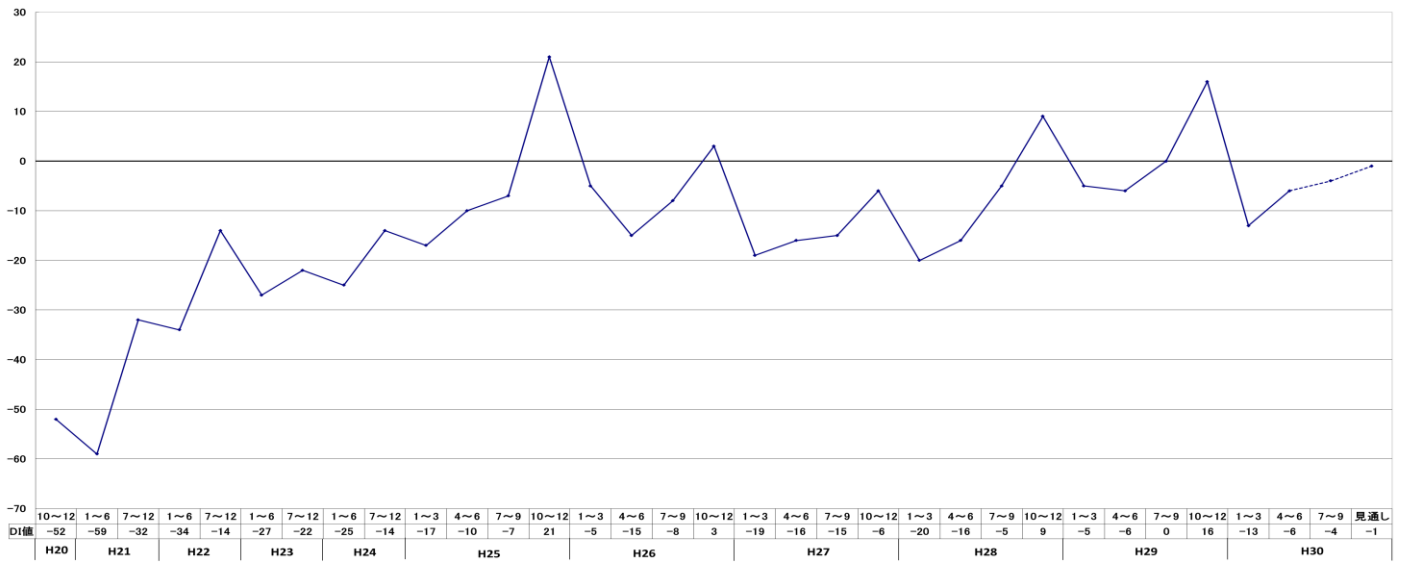
〔調査の要領〕

- 調査の対象：2008 年 10-12 月期で回答のあった全国の協会会員企業、全国産業廃棄物連合会理事及び部会運営委員会委員
- 調査の方法：郵送によるアンケート
- 調査期間：平成 30 年 10 月 9 日～12 月 7 日
- 回答企業数：371 社

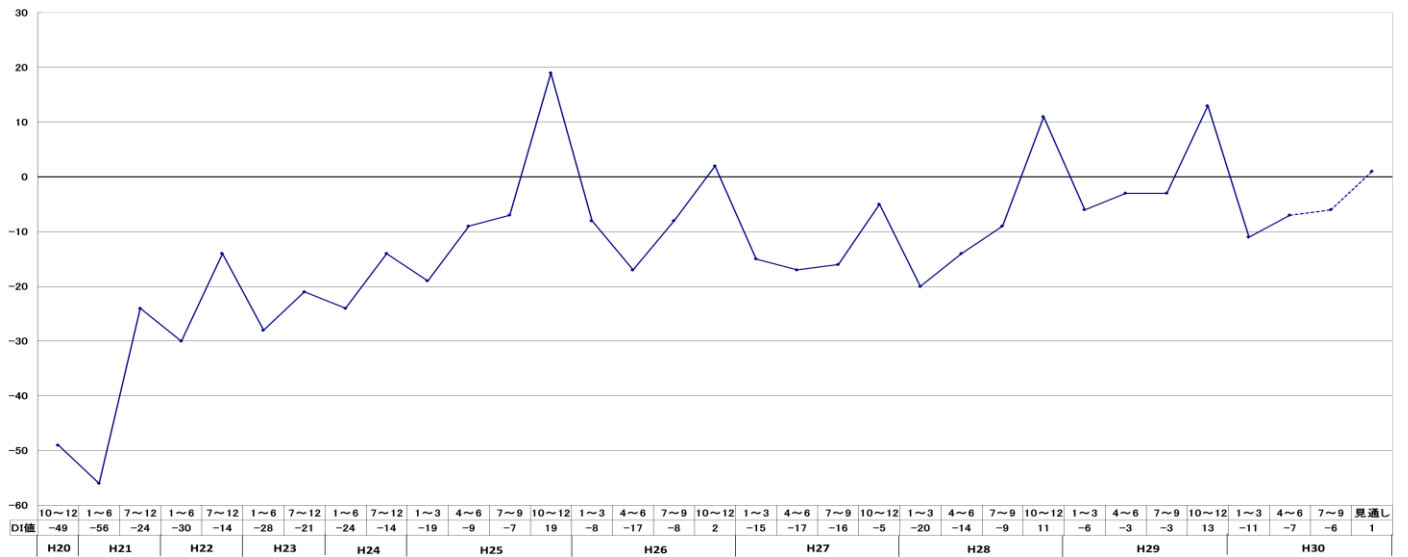
景況判断DI



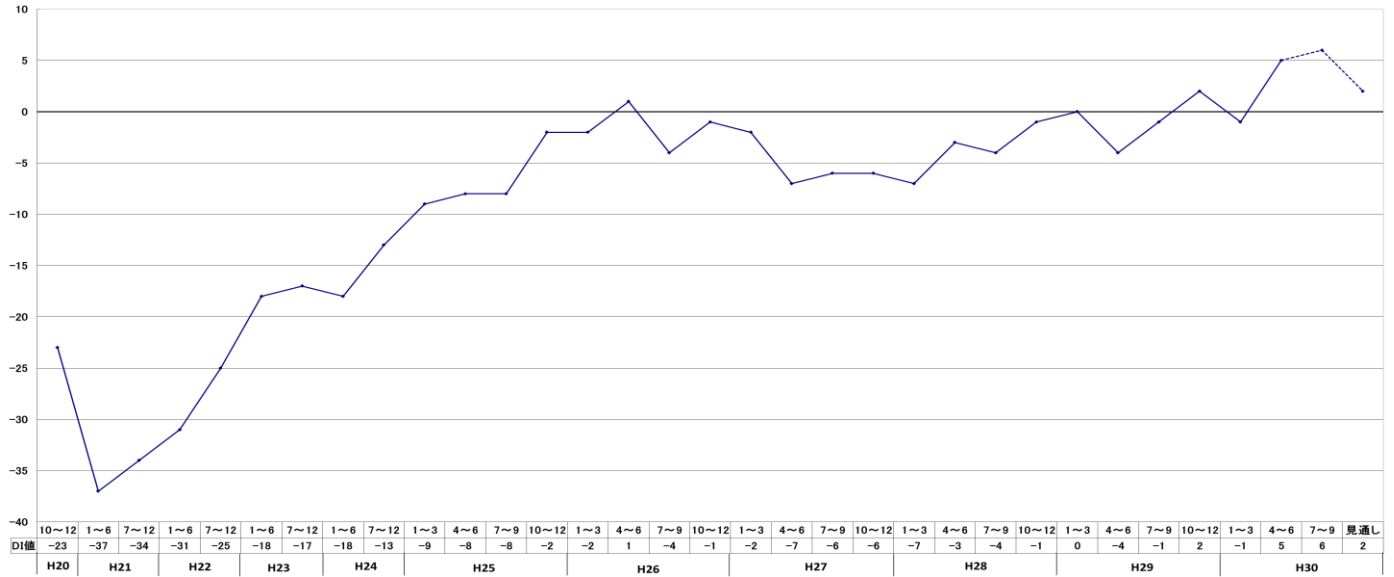
売上高DI



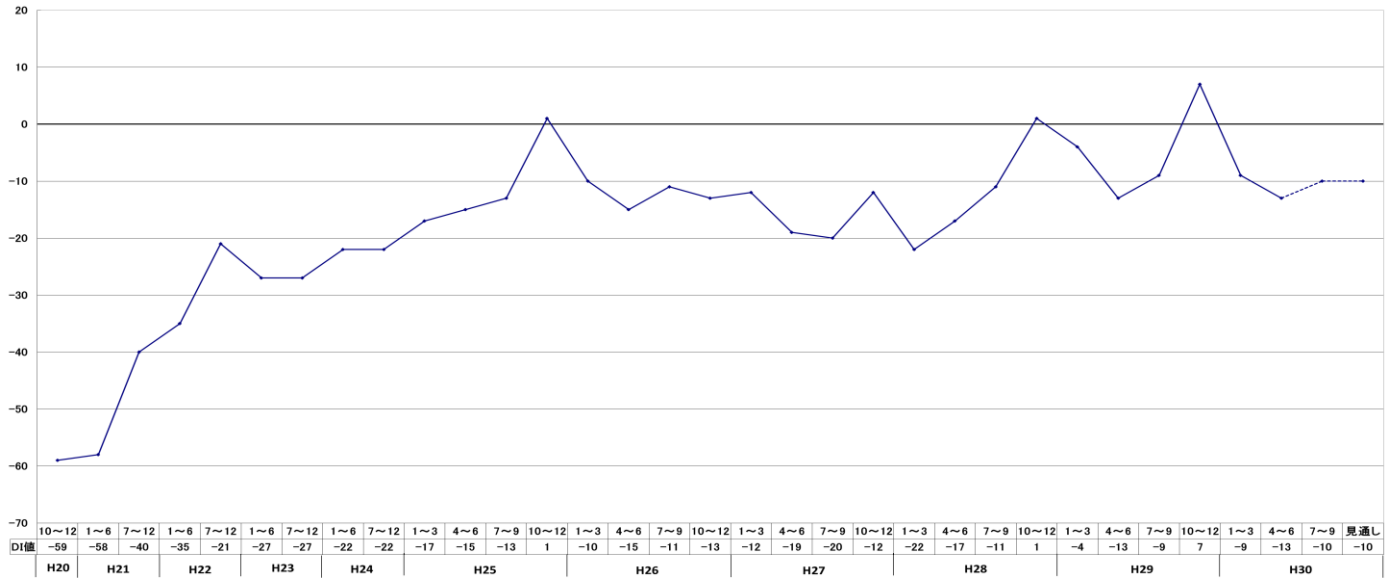
処理量DI



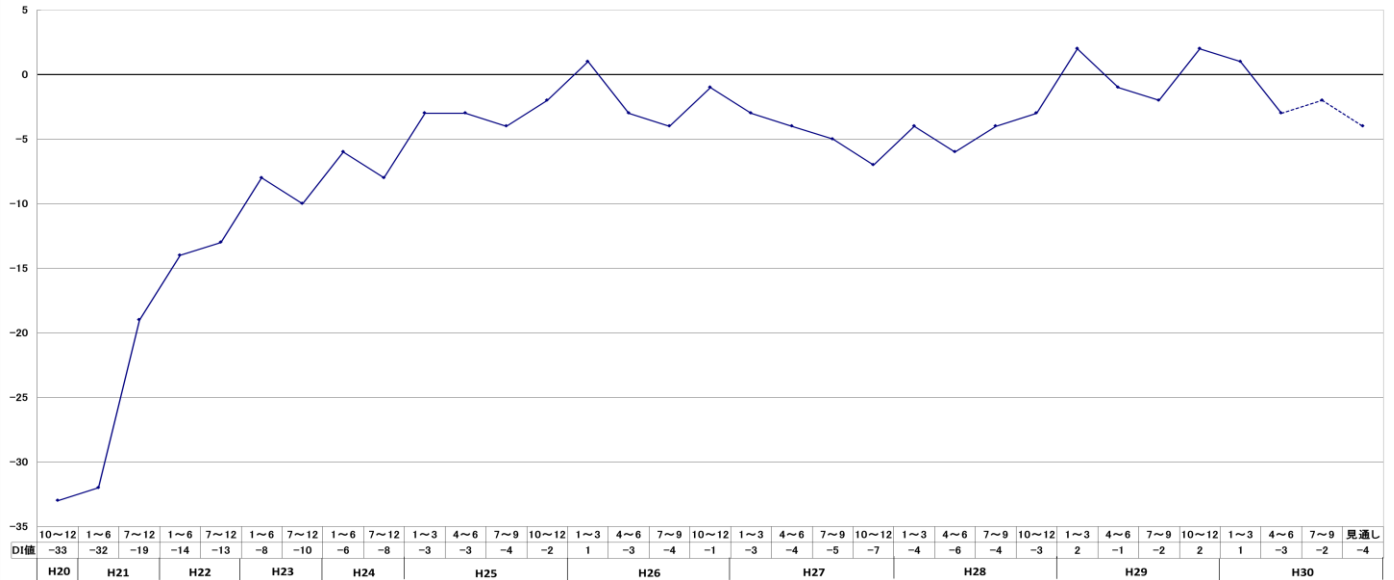
契約単価DI



営業利益DI



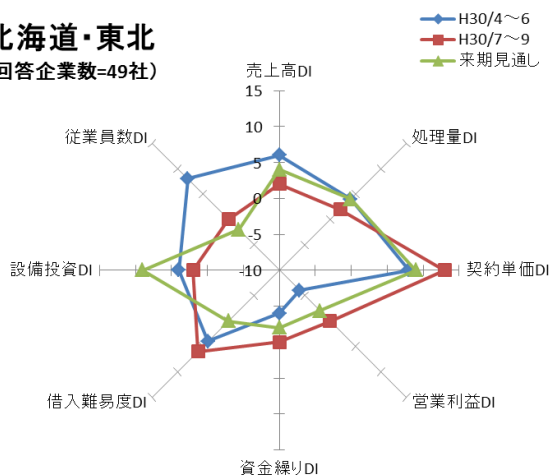
資金繰りDI



【地域別レーダーチャート】

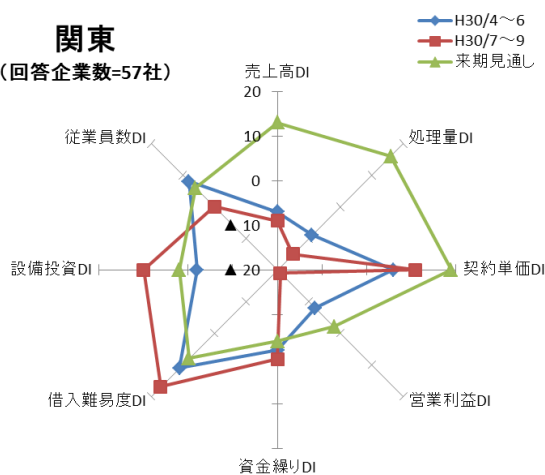
北海道・東北

(回答企業数=49社)



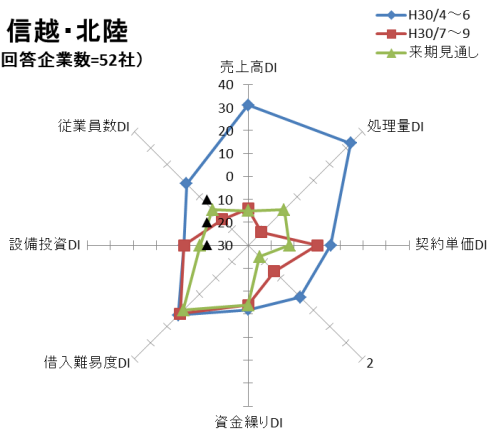
関東

(回答企業数=57社)



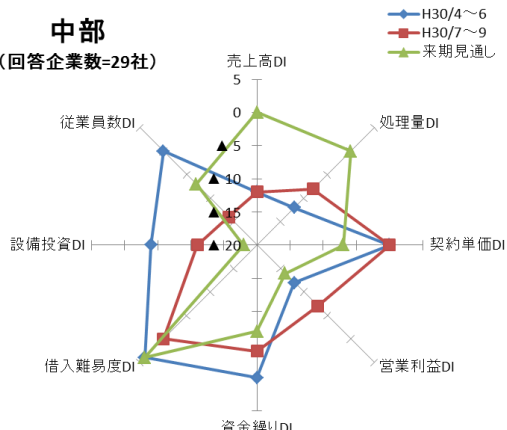
信越・北陸

(回答企業数=52社)



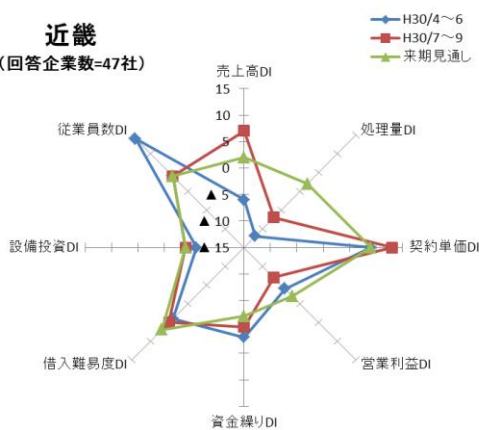
中部

(回答企業数=29社)



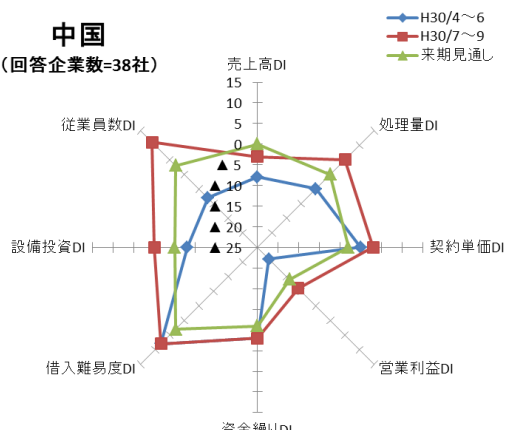
近畿

(回答企業数=47社)



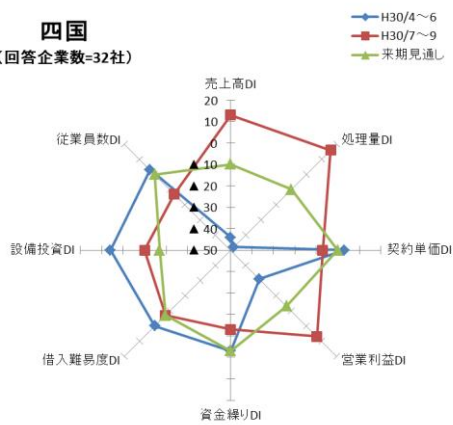
中国

(回答企業数=38社)



四国

(回答企業数=32社)



九州・沖縄

(回答企業数=67社)

